

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	もりもりの森		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 6日		2026年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2026年 2月 6日		2026年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	継続的な支援を行うため、保育園、幼稚園、学校、他事業所、各種関係機関と密に連携を取って子どもの成長を見守っている。また、心理士や看護師、作業療法士、音楽療法士など多職種の見解を踏まえて支援を行っている。	専門職の意見を取り入れるとともに、日々の療育支援にも加わってもらうようにして、課題の早期発見と丁寧な対応を行っている。	心理士、看護師、作業療法士、音楽療法士の他に、理学療法士や言語聴覚士など専門職の意見を聞けるよう職種を増やして対応できると良い。
2	室内での活動だけでなく、課外での活動や、自然に触れて心身の発達を促していける環境がある。	・自社の森を活用した療育プログラムやイベントの実施 ・外出時、安全確保のためにインカムを活用して職員間での連携を図っている。	安全確保ができるようにさらに森を整備していく必要がある。また、課外での活動時にも安全面での確保をしながら事故防止に務めていく。
3	個別的な関わりを多く持ち、個々のニーズに合わせた支援プログラムを提供している。	発達状況や特性に合わせてプログラムを複数に分けて行ったり、個別的に関わるように職員を基準よりも多く配置している。	全員が同じ活動を行うのではなく、個々の課題に合わせて必要な支援を行っていけるように複数の支援プログラムを立てたり、環境を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の成長に伴い、療育室の面積が狭くなってきているため、伸び伸びと過ごせるよう環境を整えていく必要がある。	成長に伴い、一人当たりの必要とするスペースが広がってきている。また、体力がついてきているため、バニックの際に壁や扉に強い力で体がぶつかってしまう。	活動スペースを分けて少人数で療育室を使えるようにプログラムを計画する。また、安全面に配慮し、クッションを使用したり、扉を強化するようにする。
2	保護者会などの仕組みがないため、保護者同士がつながりを持てる場が少ない。	日々の療育活動以外の日に保護者同士が集える場が作れていないため。	年に数回の保護者会の開催や夏祭り等イベントで保護者参加型の形式を作るなど、保護者同士が話せる場を提供することが必要。
3	外部研修が少なく、自己学習や園内研修に頼っている部分が多い。支援の質を向上させ行くためにも外部研修で知識を身につけて行けると良い。	職員の人数に余裕がないため、日々の配置人数を優先させると研修に出れる日数が少ないため、必要最低限の研修のみになってしまっている。	職員の増員を行い、外部研修を含めて研修の機会を増やし、現場に還元していく。